

# しよほう

第10号

平成 23 年 12 月 21 日発行  
伊勢市小俣町元町 540 番地  
事務室 0596-22-7900  
教育相談 0596-22-7867  
教育支援センター 0596-22-7901  
FAX 0596-22-7898

【目次】	・巻頭言	P1
	・情報発信にホームページを活用しよう	P2～5
	・学校に行きたくても行けない子どもたちのために	P6

## 巻頭言

伊勢市教育委員会教育委員長 熊谷 渉

教育委員をさせていただいて4年目となり、今年度は教育委員長を務めさせていただきました。私の職業は歯科医です。開業して16年が経ち、現在、三重県歯科医師会の広報編集担当をしています。对内広報では、会報誌の作成や校正が仕事です。また对外広報では、新聞掲載記事を担当しています。国語力を問われる仕事であり、国語の大切さを痛感している次第であります。

さて、本年度から小学校において新学習指導要領が全面实施され、5・6年生で、「外国語活動」が導入されました。確かに英語は公用語で、国際社会において外国人とのコミュニケーションツールとして必要です。しかし、いくら英語を学ぼうとしても、母国語の力が無ければ、会話は薄っぺらな言葉になってしまうのではないのでしょうか。自分のことはさておき、国語は義務教育の最重要教科だと思います。

小中学校は、子どもたちが集団の中で、知識や技能などを習得し、会話や言葉によって人への思いやりや感謝の気持ちを伝えることを学ぶ場でもあります。例えば、日常会話でも、ほんの些細なことから誤解を招いたり、場合によっては人を傷つけたりすることがあります。逆に、何気ない一言で励まし合ったり、勇気づけ合ったりもします。こうした経験によって、コミュニケーション能力を身につけ、社会参画できる力が育まれるのだと、私は考えています。

近年、少子化に伴い、学校の小規模化が進んでいます。子ども一人ひとりに教職員の目が届きやすい面もありますが、子どもたちの「社会」が小さくなりすぎることは、コミュニケーション能力の育成、人間関係を築く経験では、課題になるかもしれません。こうした教育環境の変化がもたらす課題を一つひとつ解決していくことは、私たち大人の責任だと考えています。また、情報入手が早くなり、時代の流れが速くなった今、既存の時間の枠組みにとらわれた会議や授業には、以前から疑問を感じていました。会議の議事進行も、あらかじめ資料が配布されていると協議のスピードが違います。学校の授業も、一コマ一コマを、既存のイメージにとらわれず、その時間の使い方を再考する時期が来ているように思います。

国語、母国語の重要性をもう一度見つめなおす時期が来ているのではないのでしょうか。

# 情報発信にホームページを活用しよう

情報教育係長兼指導主事 河村 広之

## 1, 海外での体験

「訪問前に、ホームページで学校の様子を確認しておいてください!!」

アメリカの学校訪問中に、訪問団のリーダーや現地スタッフから何度も言われた言葉です。「英語のホームページ見てもなぁ」と内心では思いつつ、夕食後のひと時、ホテルの自室から、持参したパソコンで、翌日訪問する学校のホームページをチェックするのが滞在中の日課になりました。英語は、翻訳サイトで訳すと大体の意味はつかめるので、訪問前にその学校の様子分かり、見学时に質問したりその学校の先生方とコミュニケーションをとったりすることに役立ちました。

これは、アメリカでの知財教育現地調査に参加中の一コマです。2007年に三重大学のプロジェクトに参加して、アメリカの大学・高校・中学校・小学校を訪問する機会を得た時のことです。訪問先の学校には、必ずホームページがあり、その学校の特徴や日常の様子が掲載されていました。

1999年にオーストラリアの学校を訪れた際にも、同じようにホームページで訪問前にその学校の様子を知ることができました。

アメリカやオーストラリアの学校のホームページも、その学校の教育方針や特徴、カリキュラムや保護者に対するメッセージ、児童生徒や校内の様子といった内容で、日本の学校のものとそれほど違いはありません。

ただ、ホームページを上手く情報発信に利用していると感じました。



訪問先の南オーストラリア州クラブハム小学校ホームページ

## 2, ホームページからの情報発信の利点

ホームページは、インターネット上に設けられた情報発信コーナーです。最近では、Facebook や Twitter といったコミュニケーションサイトによる情報発信が多くなってきました。アフリカ諸国の政変では、Facebook が重要な役割を果たしましたし、東日本大震災では、自治体による Twitter を利用した情報の発信が行われ、防災の観点からも注目を集めています。今やインターネットをはじめとする ICT 環境は、私たちの生活に不可欠のものとなりつつあります。そのような中で、情報を発信する重要性は、より大きくなってきていると感じています。

まだ教師になりたてだったころ、学級通信による情報発信の重要性を教えてくれた先輩教師がいました。「教師の思いと子どもの様子を日常的に発信することで、学級経営の意図を明確にし、保護者の協力や信頼を得ることができる」という意味のアドバイスでした。

ホームページによる情報発信にも同じことが言えます。学校の様子を定期的に発信することで、

学校に対する理解を深めることが可能です。さらに、そうして伝えられた情報は協力や信頼につながります。ホームページは、子どもを通じて全ての保護者に配布する学級通信や学校だよりと異なり、全ての保護者が目にするわけではありませんが、広く地域の方々に見ていただくこともできる利点があります。

その他、ホームページの利点としては、次のような点が挙げられます。

- ・ 情報が早く伝わる
  - ホームページの更新後、すぐに見ることができるので、一瞬で情報を発信することができます。
- ・ 多くの人に情報を発信できる
  - ホームページを見る機器（パソコンの他スマートフォンやタブレット端末）があれば、誰でも見ることができます。地球の裏側でも瞬時に確認可能です。
  - 保護者や地域の方々以外に、日本中・世界中に情報発信できます。
- ・ 発信も受信も任意の時間に行うことができる
  - 発信も受信も自分の都合のいい時に行うことができます。
- ・ 発信した情報は、記録として活用することもできる
  - ホームページの情報は、過去にさかのぼって記録として利用することもできます。学校沿革史のページと適宜リンクでつなげば、学校の歴史をより多くのデータで公開することが可能です。

### 3, ホームページからの情報発信の方法

ホームページの作成は、それほど難しいものではありません。更新作業も以前は、面倒な操作をしていましたが、最近は随分と簡単に更新できるようになりました。

数年前から、研究所で作成協力している学校では、専用のホームページ作成ソフトを使わずに、直接ホームページ上で記事を更新できる仕組みを導入しています。

この方法ですと、ホームページを見ながら記事を追加していけるので、更新の手間が随分と短い時間ですみますし、面倒な操作も必要ありません。

手順の違いを比べてみると次のようになります。

#### < 従来のホームページ更新手順 >

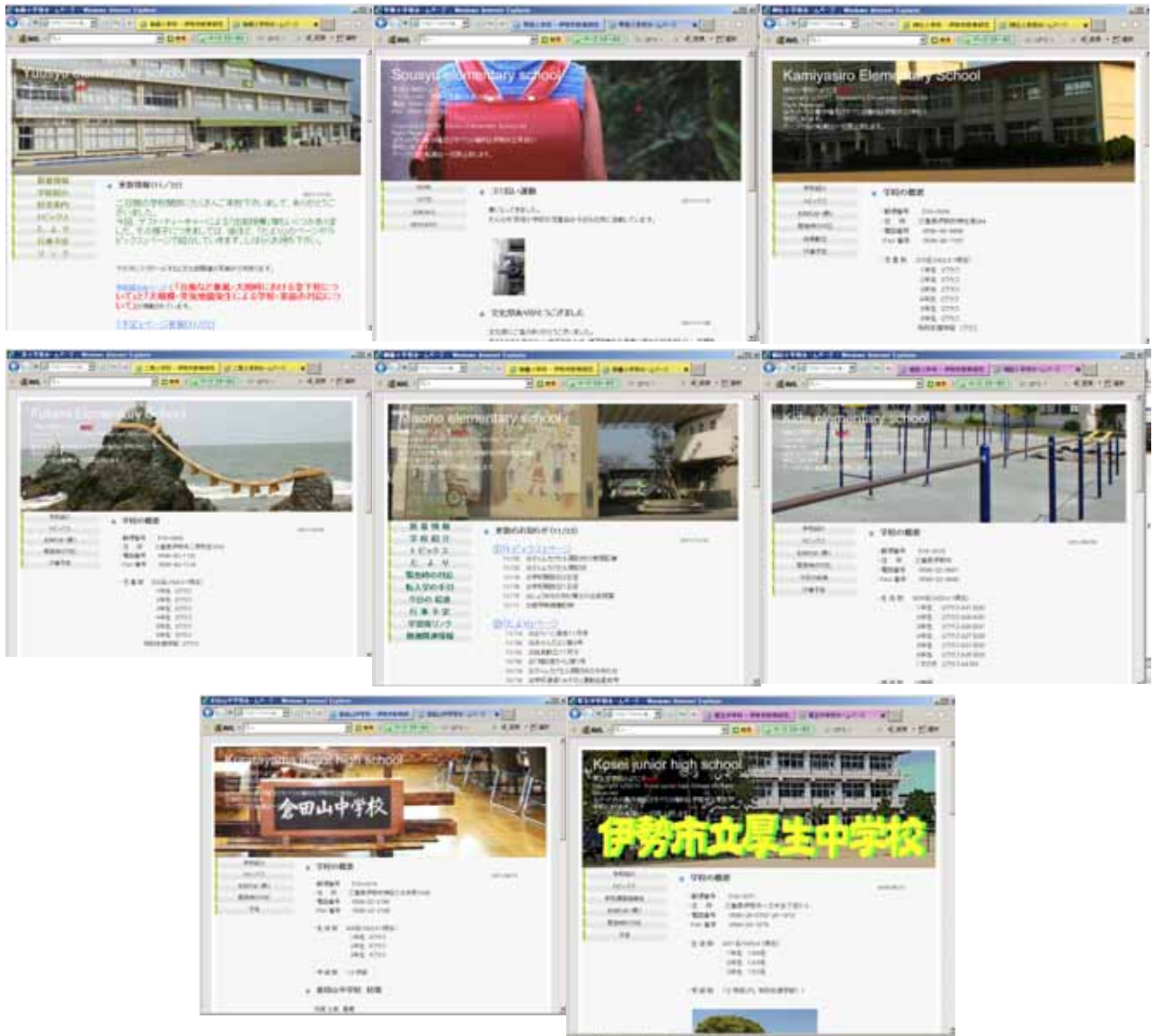
ホームページ作成ソフトを起動する。 保存してあるページを書き換える(記事を追加する)、  
変更を保存する。 保存したホームページを転送ソフトでサーバーに送信する。 Web  
閲覧ソフトでホームページを開いて更新の確認をする。

#### < ホームページ上で更新する形式での手順 >

閲覧ソフトでホームページを開く。 編集用パスワードを入力する。 記事を追加(書き換え)する。 保存する。

手順としては、一つ減るだけですが、作成ソフトや転送ソフトを使わないので、作業をしてみると、随分と楽に感じると思います。

この方法をとっている学校をいくつか紹介します。



これらの小中学校では、更新の容易さを活かし、随時更新が行われているか、またその予定です。次に紹介する学校は、従来のホームページ作成ソフトによるページと直接ホームページ上で記事を更新できる仕組みを組み合わせ活用しています。





#### 4, ホームページ作成の留意点

情報発信によって、様々な利点のあるホームページですが、その発信については十二分に気をつけなければならないことがいくつかあります。

それは、インターネットが一瞬にして全世界に通じているという事実と、その世界がほぼ無限の広がりを持つ空間であり、残念ながら悪意を持った第三者も存在すること等から、一度発信された情報を完全に取り消すことが不可能だからということです。

以下に留意点をまとめてみました。(市の「教育用ネットワーク運用マニュアル」や「教育用ネットワーク利用に関するガイドライン」も参照してください。)

##### 【ホームページ作成にあたっての留意事項】

- ・著作権の保護(一般的な著作権や児童生徒の著作権の保護)
- ・個人情報の保護(写真や名前など個人が特定されないような配慮、または保護者・本人の同意)
- ・発信情報への責任(情報の正確さはもちろん、誤字脱字にも注意が必要)
- ・外部リンクを設定する場合、その教育的効果への配慮
- ・情報の鮮度・確度(変えなくていい情報と一定期間で更新すべき情報の確認や内容の正確さを確保するため、複数のチェック体制を)
- ・担当者が固定化されない工夫(学校の実情に応じたチームでの分担が継続のカギ)
- ・情報を発信する意図の共通理解(ねらいの明確化)

ホームページによる情報発信は、学校を取り巻く環境への働きかけです。情報の持つ重要性を認識し、学校を活性化させるためのツールとしての活用をお願いします。

# ～学校に行きたくても行けない子どもたちのために～

伊勢市教育支援センター「NEST」

「NEST」とは、「鳥たちの巣のように、安心して落ち着くことのできる温かい場所」という意味です。通級してくる子どもたちに寄り添い、安心して過ごす場所づくりと、人と人が関わる喜びを感じることのできる教室づくりをめざし、やがて巣立っていくことができるようにという願いをこめています。

子どもたちの自主的な活動を尊重し、心身の安定と集団への適応ができるように支援します。自主・自立に向けての力を養い、学校復帰に向けて支援します。

## 活動内容

### 日常活動・日課

開級時間 月曜日～金曜日 9:00～14:00  
(火・金「NEST沼木」移動教室 土、日曜、祝日は閉級)

午前		午後	
9:00～10:30	ふれあいタイム	12:00～13:00	昼食・休憩
10:30～11:30	学習タイム	13:00～13:50	ふれあいタイム
11:30～12:00	ふれあいタイム	13:50～14:00	片付け・連絡

#### 【日常活動】

ふれあいタイム……子どもの興味、関心に応じた活動  
軽スポーツ、手芸、ゲーム等  
学習タイム……個々の課題に合わせた学習



#### 【NEST沼木】(移動教室)……火・金曜日

自然の中での活動、仲間との交流  
ボランティアの協力を得て農園芸体験や収穫物等による調理実習

#### 【ふれあい広場】 毎月第2水曜日(サンライフ伊勢体育室)

通級生以外の不登校児童生徒にも参加を呼びかけ、より多くの人との交流を経験し、スポーツやレクリエーションを通して互いに心身のリフレッシュを図ります。

#### 【体験的活動】

体験活動を通して、自然に親しんだり共通の生活体験をしたりする中で、人間相互のふれあいを深め、集団生活に適應する力を養います。また、生き生きと活動し、自らを表現することを通して創造する態度を育てます。

遠足(1回) 宿泊体験活動(1回) 体験(制作・表現)活動(6回程度)

### 学校復帰の支援に向けて

- ・チャレンジデーの実施。学校復帰の機会として、月1回程度設定します。
- ・学校行事、身体計測、個別懇談会、定期テスト等を学校復帰の機会と捉え支援します。
- ・放課後、あるいは短時間で無理のないところから、部分登校を進めます。
- ・学校と連携し、週に1回から登校を支援します。カウンセリングや担任の空き時間等、定期的に登校しながら、回数や時間を増やしていくよう支援します。

## 相談活動

#### 【通級生への支援】

- ・カウンセリング等の実施
- ・家庭訪問の実施
- ・電話による相談(随時)

#### 【保護者への支援】

- ・通級生保護者面談(月1回)
- ・ホッとLine「NEST」<保護者の会>(年3回)